



学会ホームページ <http://jasce.jp>

073号 (2023年11月30日)

## 目次

第19回全国大会報告  
『協同と教育』への投稿募集中  
第9回オンライン講座「日本の協同学習」のご案内  
第8回オンライン講座を開催しました  
学会ワークショップの3コース同時開催について  
学会ワークショップ開催報告  
各地の研究会・勉強会  
出版情報

## 第19回全国大会報告

この度日本協同教育学会第19回大会を比治山大学で無事に開催することができました。未だコロナの制約がありましたが、2019年以降の対面での学会開催をすることができ、多くの方々のご参加を賜りまして誠にありがとうございました。大会のテーマである「協同教育から探究を問いなおす」は、学校種を超えて研究者や教育実践者が共有し合う場となりました。大会では、様々

な分野からの研究発表、実践報告、ワークショップ、ラウンドテーブルが行われ、参加者同士が知識を共有し、新しいアイデアを生み出す有意義な時間となりました。多岐にわたるプログラムは、協同教育における探究の重要性を再確認させるものであり、当日は、多数の方々が一堂に会し、熱心な議論や交流が行われました。皆様のご協力と熱心なご参加により、大会を無事に終えることができ大変感謝しております。

今後も、協同教育の推進と発展に向けて、更なる協力と共有の場を提供してまいります。引き続き、協同教育学会へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

日本協同教育学会第19回大会実行委員会

第19回大会実行委員長 佐々木 淳

## 『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿を随時受け付けています(次号は第19号です)。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要します。みなさまの積極的な

投稿をお待ちしております。

## 第9回オンライン講座「日本の協同学習」のご案内

2024年2月10日(土)14時から、第9回オンライン講座「日本の協同学習」を開催いたします。この講座は、学会設立15周年を記念して会員の皆さまに配本した『日本の協同学習』(2019, ナカニシヤ出版)をテキストとして1章ずつ学ぶものです。第9回は山口県立大学教授の甲原定房先生を講師としてお迎えし、第8章「協同を測る」のご講話とご講話に基づく参加者間の交流を予定しています。学会ホームページから参加の申し込みをされた方にZoomのアドレスを送付いたします。テキストをご準備いただければ、未会員の皆様の参加も大歓迎です。参加費は無料です。皆さまのご参加をお待ちしております。

研修委員会 ([kenshu@jasce.jp](mailto:kenshu@jasce.jp))

## 第8回オンライン講座を開催しました

2023年9月30日(土)に第8回

# JASCE

「オンライン講座」を開催しました。参加者は会員28名と未会員2名の30名でした。

今回は、「日本の協同学習（日本協同教育学会編、ナカニシヤ出版）」の第7章「日本における協同学習の実証的研究」を執筆された中西良文先生（三重大学教授）と長濱文与先生（三重大学准教授）を講師としてお招きし、ワークショップ形式での講座を実施していただきました。ご講演では、近年の実証的研究を対象や内容に基づいて分類された後に、今後の実証的研究においては新たな「実践」の展開と「研究」の実施がセットになることから、新たな研究の観点が示されました。その後の参加者同士のディスカッションでは、「今後の研究の展望」について活発な議論が展開されました。オンライン講座終了後のアンケートでは、「グループ活動では、新しい実践展開についてもアイデアを得ることができました。」や「協同学習に関連した実証的研究を広く学び、その後自己の今後の研究を視野に入れた具体的な議論ができたのがとても貴重な機会となりました。」といった感想が寄せられました。

研修委員会 (kenshu@jasce.jp)

## 学会ワークショップの3コース同時開催について

2024年3月9日と10日に創価大学にてベーシック・アドバンス・マスターの3コースを同時開催いたします。関東地区では2019年7月以

## 学会ワークショップ 今後の予定（判明分）

### <ベーシック>

2024年3月9日（土）、10日（日）【主催】

会場：創価大学（東京都八王子市）

講師：太田昌宏

### <アドバンス>

2024年3月9日（土）、10日（日）【主催】

会場：創価大学（東京都八王子市）

講師：伏野久美子

### <マスター>

2024年3月9日（土）、10日（日）【主催】

会場：創価大学（東京都八王子市）

講師：杉江修治・石田裕久・安永 悟・関田一彦

詳細情報、参加のお申し込みは学会HP (<https://jasce.jp/1031workshop.php>) からお願いいたします。

来の開催です。体験的に協同学習の考え方や技法に習熟できる機会です。認定ワークショップでは、参加者同士での学び合いや情報交換が温かな雰囲気の中で盛んに行われます。初めての方、リピーターの方、多くの方のご参加をお待ちしております。

さらにベーシックとアドバンスに加えて、マスターコースも開催されます。マスターコースは2018年3月以来の開催です。アドバンスコースを修了後1年以上にわたって、協同学習に関する研究もしくは教育実践の実績を積んでいる方を対象とするワークショップです。認定ワークショップ（ベーシック）の講師を目指す方や研修会や研究会等で協

同学習の普及に貢献したい方のご参加をお待ちしております。

なお、3コース同時開催期間中、並行して「JASCE実践交流会（仮称）」の開催も計画しております。3月9日の午後と3月10日の午前午後、90～120分程度のミニワークショップや小講演などのプログラムを幾つか準備する予定です。協同学習や協同教育に関心がある方が1つのプログラムから気軽に参加できる企画です。詳細が決まりましたらホームページ等でお知らせいたします。

## 学会ワークショップ開催報告 ワークショップ<ベーシック>を大阪で開催

11月11日（土）、12日（日）の両

# JASCE

日、大阪YMCA日本語教育センターとの共催の協同学習ワークショップ(ベーシック)が開催されました。初めての大阪でのワークショップのため、どの程度の参加者があるか心配されましたが、幸いにも満員となる申し込み。ただ、直前になってのキャンセルがあり、最終的な参加者は26名でした。講師は、サルバション有紀先生(名古屋女子大学中学校高等学校)と石田裕久先生(南山大学)。参加された方々からは、「異分野の方との交流が持てたことや、同じ分野の方と同じ悩みを共有できたことで、今後頑張ろうと思うことができました」「とても楽しい2日間でした。何を言っても大丈夫だという安

心感があり、とても心地よかったです。自分のクラスでもこのようなしかけ作りをしたいです」「今後も、協同学習を継続して改善を重ねて、少しでも実りのある授業ができればと思います。ゴールを明確にすることを、改めて重要だとわかりました」などの感想が寄せられました。素敵な会場の提供に、大阪YMCA日本語教育センターの亀田美保先生にはご尽力いただきました。御礼申し上げます。今後は、大阪での開催を増やしていく予定です。多くのご参加をお待ちしております。

## 各地の研究会・勉強会

(大阪地域)

### 協同学習を用いた看護教育研究会

◇第50回「協同学習を用いた看護教育研究会」を2023年11月18日(土)13:30～17:00に、グランフロント大阪アクティブスタジオとZoomでのハイブリッド開催としました。北海道、沖縄を含め関東、東海、関西から25名の方にご参加いただきました。詳細は参加者アンケートをもとに、次号で報告させていただきます。

本研究会は2014年9月、看護系教員が「協同学習の理論と授業実践を往復することで協同学習への理解を深め、適切な協同学習の実践と研究につなげる」ことを目的にスタートし、開催50回目の節目を迎えることができました。

参加者の皆様には常々、次の5点をお伝えしてきました。1. 日本協同教育学会のワークショップのうち、ベーシックコースを早期に受講し、協同の意義とその精神、協同学習の定義、基本的な技法などを学ぶこと。2. 日本協同教育学会に入会し年次大会に参加することで、協同学習に対する理解やモチベーションを高めること。3. 可能な限り本研究会に継続して参加することで、自己の授業課題を発見し、改善につなげる。4. 協同学習を用いる目的を明確にし、適切に用いて実践と評価(振り返り)を積み重ねること。5. 協同学習を実践する仲間とのかかわりをとおして、看護職や看護教員である前にひとりの人間として協同の精神を自らの行動に体现できる人になっていくこと。

第1回目の参加者は7名でしたが、現在の参加登録は100名を超え、なかでも北村敦子先生は第1回目から継続して参加してこられました。この間、日本協同教育学会より関田一彦先生、安永悟先生、杉江修治先生、石田裕久先生、水野正朗先生、鹿内信善先生、太田昌宏先生が勉強会の講師としてお越しくさざり、多くのことを学ばせていただきました。また、アクティブスタジオの会場使用については、梅花女子大学からご支援をいただいております。心より感謝申し上げます。

これからも、「参加して良かった」「また参加したい」「授業に活かされた」「こんな成果が出た」というよう



# JASCE

に、学生たちの学びを促進していく原動力にお役に立てるよう、企画運営に一層努力してまいります。

今回は、2024年1月20日(土) 13:30～17:00(場所:グランフロント大阪アクティブスタジオ)です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。代表:緒方巧

連絡先:t-ogata@baika.ac.jp

## (北海道地域)

### 協同学習による授業の創造と授業研修会の改善のための研究報告

◇大変ご無沙汰しております。北海道文教大学の石垣則昭です。北海道では残念ながら、学習指導要領の授業改善のテーマである「対話のある授業づくり」(対話とは自己対話を含める)が形骸化し成果の見えない授業が散見しております。その中でも、昨年、ひまわりの里として知名度の高い雨竜町にある小中一貫校の雨竜学園(校舎の1階が小学校、2階が中学校)にて、「協同学習による授業づくり」と題し対面及びZOOMを併用しながら教職員の方々と授業研究を5回に渡り進めました。また形骸化した授業研修会を、教

職員の協同を創る校内研修(参考文献:『教師の協同を創る校内研修』、著者:杉江修治、水谷茂、ナカニシヤ出版、2017年7月)と題し、小学校教諭2名、中学校教諭2名の4名で1グループを編成し、①本日の授業研修会で学ぶべき学習過程と教育方法論、②自身の学習指導に取り入れたい点、③本日の授業で協同の視点で改善を加えることにより児童・生徒の協同意欲が高まると考えられる点について、先に私がファシリテーターと研修を進め、70名ほど近隣の学校より参加頂いた授業公開日では研修担当教諭により協同学習による授業展開の説明とともに、教育研修会のあり方を参加された皆さんに体験して頂き好評を得ることができました。令和5年の本年度はサラブレッドの里として名高い、日高管内浦河町の教育長の執行方針により小学校5校、中学校2校に「協同学習が創る学習展開」と題し町内全ての学校の教職員を対象にZOOM研修を含め6回、協同学習の理論及び授業研修会を積み重ねています。

## (九州地域)

### 第58回「協同教育研究会」開催報告

◇2023年9月23日(土)13時から16時15分まで、『対面』で実施しました。参加者は33名でした。研究会後に会場にて、情報交換も行いました。会の概要を報告します。

(1) 挨拶・導入

a. 担当:安永 悟(久留米大学)

b. 内容:挨拶と学びの場づくり(質問ゲーム)

(2) 協同カフェ「グループ活動って、難しい…?」

a. 担当:平上久美子・比嘉真子(名桜大学)

b. 内容:学校や職場におけるグループ活動について、まったくの前提条件なしに、参加者の皆さんと語り合いました。参加者33名は二つのグループに分かれ、ファシリテーターのもとグループ単位で活動しました。最初に、グループ活動中に呼んでもらいたい「名前」を紹介するという形式で自己紹介を行いました。その後、グループ活動に関する知識や経験に関係なく、グループ活動について平日頃気になっていることを対等な関係のなかで語り合いました。その結果、まったくの前提なしに話すことの新鮮さと難しさを体験することができ、多くの気づきを得ることができました。

(3) 講話と対話「いま改めて協同教育とは、…」

a. 話題提供:関田一彦(創価大学)

b. 内容:協同教育とは何かを問い直し、協同教育と協同学習との関係や、協同教育でしばしば使われる「言葉(協同の原理、協同の精神、協働学習など)」について再度確認しました。その後、参加者の皆さんとの対話を通して、協同教育と協同学習の関係性をあらためて問い直すことができました。

次回の研究会は2024年2月中旬を予定しています。研究会案内等は



# JASCE

「結風」ホームページ(<http://yuikaji.me/>)をご覧ください。

問い合わせ先：協同教育研究所  
「結風」office@yasunaga.me

## (全地域)

### 全国看図アプローチ研究会

◇『全国看図アプローチ研究会研究誌』19号を公刊しました。

今号から表紙のデザインイラストを変更しました。研究会専属アートスタッフ石田ゆきが撮影してきた「エゾリス」がモチーフになっています。表紙も鑑賞していただければ幸いです。

今号も、学びの多い読みごたえがある論文がそろいました。看図アプ

ローチの良さがより多くの先生方に伝わることを願いつつ執筆・編集しました。

## 掲載論文▼

1. 看図アプローチを取り入れた予習の検討ー看護技術(静脈血採血)の授業実践結果よりー

宇治田さおり・菊原美緒・高木良重・吉村千草

[https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.19\\_pp.3-10.pdf](https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.19_pp.3-10.pdf)

2. きゅうちゃんでかるたづくりー看図アプローチによる特別支援学級での教科等横断的学習ー

田中 岬

[https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.19\\_pp.11-34.pdf](https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.19_pp.11-34.pdf)

3. 「人物を描写しよう」単元の授業に看図作文を取り入れる

鈴木有香子・鹿内信善

[https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.19\\_pp.35-47.pdf](https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.19_pp.35-47.pdf)

4. 編集後記(鹿内信善)・奥付

<https://kanzu-approach.com/journal/journal-vol.19-henshukoki.pdf>

連絡先：研究会事務局長 石田ゆき (kanzu.approach.office@gmail.com)

## 出版情報



## 『コレクティブ・エフィカシー』

原田信之 [訳者代表] 笹山郁生、宇都宮明子、石田裕久、長濱文与 [訳]

日本協同教育学会の会員4名を中心に邦訳した本書『自立的で相互依存的な学習者を育てるコレクティブ・エフィカシー』(北大路書房、2023年11月刊)が出版されました。セルフ・エフィカシー(自己効力感)とコレクティブ・エフィカシー(集合的効力感)は、アクティブ・ラーニング(主体的、対話的・協同的で深い学び)のバックグラウンドで駆動する力です。コレクティブ・エフィカシーの方はセルフ・エフィカシーよりも馴染みが薄いかもしれませんが、双方ともにバンデューラにより考案された用語であり、これら2つのエフィカシーを両輪的に育成することが、令和の日本型学校教育として標榜されている「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実につながると考えられています。これまで「自己効力感(セルフ・エフィカシー)」や「非認知能力」の育成に関心を寄せたり、「対話的で協同的な学び」や協同学習の5つの基本要素の教育効果に期待を寄せたりしてきた読者層にとっては、教育実践をさらに深めるための次なる探究に向かう橋渡しになることが見込まれます。コレクティブ・エフィカシー、つまり「各個人でやるよりも、グループのほうがよい結果を生み出せるという確信」(同書35頁)を育むことの大切さについて改めて考察するのに、ぜひ手に取ってお読みいただくと幸いです。